

研究の振り返り

* 教師アンケート等より (○成果, ●課題, □取組等)

1 目指す子どもの姿の実現状況について

* 数値は7月と12月の教師アンケート結果

(1) 思いやりの心を持ち、仲間と力を合わせて生活する子ども

2. 5 p → 3. 2 p

- 総合的な学習の時間での取組を通して、人と関わる時のマナーや思いが確実にアップしている。
- 総合でグループ別の活動を4月からずっと続けてきたことが、「力を合わせる」ということに関してプラスに働き、人任せにする子どもが少なくなった。
- 生活科や総合的な学習の時間において、共通の課題を追究するグループによる関わりや活動が多く見られた。子どもの願いや思いを大切にしたい学習過程をより多く設定したことにより、関わり合いは深まり、他への思いやりの気持ちを育むことができたと感じる。
- 話し合う力が付き、自分の思いを伝えることが上手になり、それが力を合わせることにプラスに働いている
- 他とつながりをもちたいが、その伝え方・関わり方のスキルが身に付いてない場合が見られる。

(2) めあてをもち、課題や問題の解決に進んで取り組む子ども

2. 7 p → 3. 4 p

- 全員で一つのめあてを認識し、その中で自分は何をするべきかを考えながら活動することができていた。
- 生活科や総合的な学習の時間での積み重ねからスキルを身に付けていっていると感じる。
- 当初は「めあて」と書いても教師等から与えられたもので、自分のめあてと捉えていない子どもも多かったが、めあてに向かって学ぶ体験を重ねることで解決する楽しさを感じ取り、「自分のめあて」として捉えるようになってきた。
- 課題提示の工夫や板書、ノート指導の工夫などにより、1時間のめあてがはっきりした学習が積み上げられていると思う。「進んで取り組む子ども」を育てるために、一層の基礎基本の定着とともに、課題を解決した子どもへの次なる手立てが必要になると思う。

(3) 困難に立ち向かい克服しようとする、たくましく必要心と体をもつ子ども

2. 4 p → 3. 1 p

- 不満を口に立ち、すぐに諦めるムードが雰囲気があったが、「よこい課題！」と前向きに捉え、「どんなに難しい課題でもいろいろな方法でアプローチし、友達と知恵を出し合うことで解決に近づくことができる」と考える集団に育ってきた。
- 「最初はできなくても、がんばってやったらできるようになるよ！」と、互いに励まし合い取り組んだ。誰かができるようになると「やったね」「すごい」と自然に拍手する雰囲気ができた。
- 自分で乗り越えられず、声かけや手立てを必要とする場面が見られるが、切り替えて自力でできるまで課題を解いたり、班の活動に追いつこうとしたりする気持ちは育ってきている。また、その姿を周りの子どもたちが認められることが増えたように思う。
- 体のたくましさという点では、継続的な取組が必要であるが、もっと効果的に行えるように、体育の時間の最初の時間の使い方を共通理解し、全校で取り組めるようにしたい。

2 目指す子どもの姿を実現するための研究の重点と具体的な手立てについて

(1) めあてを引き出し、意識させるために

2. 8 p → 3. 4 p

- 今一度「子どもの思いや願いを大切にすること」が大事ということ強く感じた。また、そうすることで、どんな仕掛けよりも、活動が盛り上がること、また、表現したいという姿が見られることが分かった。
- 子どもの「？」が出てくるように、既習事項から未習事項への導入の仕方を工夫した。めあては「～できる」や「～しよう」と、この時間に子どもができるようになることを意識した文言にするようにした。
- 単元構想図をもとに単元計画を立てることで、子どもの思いや願いを意識しためあてを教師側がもっておくことができた。

(2) 「話す力」や「聞く力」を育てるために

2. 6 p → 3. 3 p

- 自分の考えとの「共通点」や「似ているところ」、「相違点」を意識させた。話し合いがメインとなる学習(学活や道徳)は、コの字型の教室配置にし、学び合いの意識も高めるようにした。
- ある子どもの発言に対して、疑問や反論がありそうな時には「何か言いたいことがある人は手をあげてごらん」と促し、子ども同士のやりとりが生まれるようにした。
- 生活科の学習を通して「話す・聞く」マニュアル的なものも大事だが、話し手・聞き手ははっきりと区別されているわけではなく、一体となって表現し合うことも大切であると認識できた。

(3) 「考える力」を育てるために

2. 7 p → 3. 0 p

- 子どもの考える力を引き出すための学習環境や資料の準備が大変良くなされていると思う。グループでの活動や話し合いの目的をより明確にすることで、より考えが深まると考えられる。
- グラフや表の読み取りなどは社会や算数だけでなく、様々な教科で繰り返し指導していく必要がある。調査を進めていくうちにどれが必要資料なのかわからなくなってしまうことがよくある。調査の目的を常に意識させ、必要な資料かどうかを選択する力も育てていかななくてはならないと感じた。
- 話を聞き取ることも、必要な情報を読み取ることも、その前提として「自分の考え」があることが必要条件だと分かった。また、予想を立てることが考えをもたせる手立てとして有効だと感じている。

(4) 「学びを深めて、生かそう」とする意欲を高めるために

2. 5 p → 3. 2 p

- 視点を明確に提示した振り返りが多く行われており、子どもたちにとっても多くの気づきが生まれる振り返りになっていると思う。
- 子どもの変容や成長は、見取ったらすぐに伝えることが必要だと感じた。他者から認められる経験を重ねると、他者を認める能力が高まっていく。活用も同じように「今まで○○で身に付けた力を使っているね」と気付かせることが重要であると思う。